

地域で愛される犬になるためには「しつけ」の徹底を！

「お手」や「おすわり」ができるようになるのと、つい「しつけができた」と思ってしまうがちですが、本当にしつけができた状態とは、飼い主が「待て」などの命令をしたときに、犬が素直に従っている状態を指します。多くの飼い主さんから「しつけが難しい」と相談されますが、大抵の場合、犬が小さいいたずらをしたときに見逃していたり、何もない時におやつを与えるなどで愛犬を甘やかせてすぎている可能性があります。しつけのコツは、「メリハリある教育」。悪いことをした時は真剣に怒っている感情を犬に伝え、良いことをした時はしっかりと褒めること。些細なことでも、ひとつ一つの事柄へ丁寧に向き合っていると、飼い主と愛犬との間に、信頼関係と上下関係が生まれ、短期間でしつけが完了する場合があります。しつけの最中は根気が必要で、時には可哀想に感じることもあるかもしれませんが、しつけができていないと、人に危害を加えたり、愛犬自身が事故で命を落とす恐れも…。家族や近隣住民の暮らしや安全を守り、愛犬がみんなから愛されるため、しっかりと愛犬のしつけに向き合ってみてください。

# 地域の愛され犬になるために



家族に迎えたその日から、愛犬も地域の一員になります。さまざまな人が暮らす地域で、愛犬が受け入れられるために知っておきたい犬のしつけ方や、気を付けたいエチケットについて「みんなのブリーダーアワード 2023」で栄えある日本一に輝いた「ニコニコケネル」(伊方)の鄭珠衣さんに教えてもらいました。

## 在宅時に気を付けたいこと

### 人と愛犬の命を守る 犬の係留



屋外で犬を飼う場合、逸走を防止する柵や檻などの囲いの中で、ヒモや鎖などで確実につないで飼育する「係留」が義務付けられています。係留義務を守らないと、飼い犬が思いがけない行動をしたときに、人に危害を加えたり、物を壊したり、犬自身が事故で命を落としたりと、さまざまな問題が生じる恐れがあります。「自分の愛犬は大丈夫」と過信せず、万が一のことを考えて、飼い犬の行動を制御するための係留をしましょう。

### ご近所さんと愛犬に配慮を 鳴き声



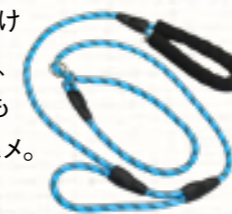
言葉が話せない犬は、鳴くことで感情やメッセージを伝えようとしています。お腹がすいた、喉が乾いた、何かが怖い、トイレがしたいなど、愛犬のことを一番理解できるのは飼い主さんです。犬が鳴くタイミングや状況をよく観察し、鳴く原因に対処しましょう。それでも鳴き癖が治らない時はストレスが原因である可能性も…。犬は噛む行為でストレスを発散するため、噛むおもちゃや噛み応えのあるおやつを与えてみましょう。

## 散歩中に気を付けたいこと

### 絶対NG ノーリード



他の散歩中の人や犬に襲いかかったり、噛みついたり、突然走り出して走行中の車にひかれ愛犬自身が命を落としたりと、ノーリードにはたくさんの危険が潜んでいます。しつけができて自信があっても、外に出かけるときは確実にリードを着けて出かけましょう。また、しつけ途中の犬の散歩は、トレーニング用のリードを使用し、散歩もしつけの一環として訓練することがオススメです。



### 最大の注意 トイレマナー



犬に関する近隣トラブルで、一番の課題となっている散歩時のふん尿問題。地域の衛生環境の悪化につながるだけでなく、地域住民のかたを不快な気分にさせてしまいます。散歩に出かけるときは、フンを持ち帰る袋やフンを捨てるもの、水を携帯しましょう。犬が散歩中にトイレをした時は、飼い主の責任において、フンは袋に入れて持ち帰り、尿はきれいに洗い流すなどして正しく処理し、飼い犬がみんなに愛されるよう務めましょう。

## Column 2

### 咬傷事故の防止対策を

犬が人などを噛みつき危害を加える「咬傷事件」は、現在でも毎年4000件以上発生しています。咬傷事故を起こした犬の99%以上は飼い犬であり、責任者である飼い主が高額な損害賠償を請求される場合もあります。犬を制御できるよう「しつけ」を徹底する、リードを必ず着用して散歩する、外で飼う際は柵を建て適切な長さの鎖でつないでおくなどで、飼い主が責任をもって飼い、咬傷事故を防ぎましょう。



## Column 1

### 私有地への進入禁止

「犬を散歩させている人が、私有地の駐車場や封鎖中の敷地に無許可で侵入したうえ、飼い犬にトイレをさせ、きちんと処理をせずに帰った」という趣旨のクレームが、今年に入ってから多数寄せられています。衛生面だけでなく、防犯面でも近隣住民の迷惑となるこの問題。全国では、類似する事案が書類送検されたという前例もあります。飼い主として責任ある行動を心掛け、愛犬との散歩を楽しみましょう。

